



町田の
全中学生に
捧ぐ！

町田ゆかりの
推しはこの人



東京都町田市相原町に生まれた八木は、大戸尋常小学校に入学し、5年生から川尻尋常高等小学校へ進学。その後、神奈川県師範学校時代に英語の勉強のため日本メソジスト録金教会に通い、1919年に駒込基督教會で洗礼を受けた。東京高等師範学校を卒業後、兵庫で英語教員となりた頃から盛んに短歌を作り始めた。1922年に島田とみと結婚し、詩作に専念。1925年には第一詩集「秋の瞳」を刊行した。これが縁となり様々な雑誌に作品を発表した。



『貧しき信徒』野菊社 1928年



『秋の瞳』新潮社 1925年

人物紹介

八木重吉

エピソード

不思議な少年

川尻尋常高等小学校の頃、ふざけていたクラスメートが八木の前歯を半分折ってしまうという事件が起きた。しかし八木は泣くことも怒ることもなく終始冷静だったという。このような不可思議な一面もある八木は、皆から一目置かれる存在だった。

学生時代の驚きの成績

神奈川県師範学校の頃の成績は、英語は圧倒的な学年トップ、他の教科も体操と音楽以外は80点以上だったという。

「超」がつくほどの愛妻家

妻・とみとの婚約時代、3ヶ月に何十通もラブレターを送るほど熱愛ぶりだった。詩の中でも妻への想いを多く詠んでおり、純粹な心の持ち主だった。

1927	1926	1925	1922	1921	1919	1917	1912	1898
年 29。10月26日、結核のため死去。享	『貧しき信徒』を編む。	詩集『秋の瞳』刊行。	島田とみと結婚する。	兵庫県で英語の教員になる。	洗礼を受け、キリスト教徒になる。	神奈川県師範学校を卒業後、東京高等師範学校に入学。	神奈川県師範学校へ進学し寮生生活を始める。	2月9日、東京都町田市相原に生まれる。

八木重吉

skill



愛妻



計測不能



英語
Lv4



友達
Lv1



純粋さ
Lv5

Profile

代表作 『秋の瞳』『貧しき信徒』

誕生日 1898年2月9日

出身地 東京都



1898年に相原で生まれ、進学して寮生活をするまでの14年間をそこで暮らした。作品のなかに、身近な町田の自然が描かれている。

2年間の軍隊生活の後、日本美術学校に入学。卒業後、新作落語作家などを経てマンガ家になった。1931年、「少年俱楽部」に「のらくろ二等卒」を発表し1941年に戦争の影響で情報局から執筆禁止令を受けるまで連載した。子どもだけでなく大人までもが夢中になり一大ブームとなった。戦後の1969年には「復刻版のらくろ漫画全集」が出版され再びブームになりました。妻と仲が良く、60歳近くになつてから教習所に通い運転免許を取り、妻とドライブに行くほど



『のらくろ上等兵』
大日本雄弁会講談社 1932年

軍隊に入ったが…
画家志望だったため、昇進の機会を譲り、軍用鳩通信班で鳩の世話をしながら隙をみては絵を描いていたという。

だった。そのとき、「どうだ、着いたらどう」という言葉を残している。落語作家だったこともあり、晩年は滑稽・ユーモアの研究に没頭した。ガーデニングが趣味で、玉川学園に移住した際、広い庭を持てたことをとても喜んだ。

名前の由来は…
田河水泡はベンネームで、本名は高見澤仲太郎（たかみざわ・なかたろう）。このベンネームは、高見澤→(TAKAMIZAWA)→たかみざわ→田河水泡となつた。

サインの秘密
サインが成長し変化するのも面白いと思いつき、オタマジャクシを書き始めた。このサインは田河が90歳になつたことを祝つて、無事力エルに成長した。

「のらくろ二等卒」が大人気となり、「のらくろブーム」が起こる。印刷用紙の節約のため執筆禁止令ができる。

1989	1969	1941	1931	1928	1927	1926	1922	1919	1899
享年90。 12月12日、呼吸不全のため死去。	『復刻版のらくろ漫画全集』刊行。 第一次の「のらくろブーム」が起こる。	日本美術学校図案科に入学。 絵画だけでは生活できないと思 い、落語作家になる。	日本美術学校図案科に入学。 落語の才が認められるとともに、 漫画家としてデビューする。	2月10日、東京都墨田区に生ま れる。	小林富士子と結婚する。	「のらくろ二等卒」が大人気とな り、「のらくろブーム」が起こる。	印刷用紙の節約のため執筆禁 止令ができる。	『復刻版のらくろ漫画全集』が起 こる。	

人物紹介

田河水泡

Hピソード

田河水泡

skill



落語
Lv4



運転技術
Lv2



滑稽・ユーモア
Lv5



妻との仲の良さ
Lv4



ガーデニング
Lv5



Profile

代表作 「のらくろ」シリーズ

誕生日 1899年2月10日

出身地 東京都

1969年から亡くなるまでの20年間を玉川学園で暮らし、趣味のガーデニングを楽しんだ。

思うより先にやっちゃんのが私の癖

しらすまさこ 白洲正子

skill



目利き力
Lv5



能
Lv5



お嬢さま
Lv5



素直
Lv3



料理
Lv0



Profile

代表作 『かくれ里』『鶴川日記』

誕生日 1910年1月7日

出身地 東京都

1943年に戦禍から逃れるために町田に移住し、生涯にわたって「武相荘」と名付けた自宅に暮らした。町田市名誉市民の第一号。

人物紹介

白洲正子

Hピソード

自分の眼で見る行動派

生まれてはじめて口にした言葉が「バカヤロウ」で、気に入らない医者が診療に来た時は、布団を蹴つて叫んで逃げ出した。

第一声は「バカヤロウ」

生まれてはじめて口にした言葉が「バカヤロウ」で、気に入らない医者が診療に来た時は、布団を蹴つて叫んで逃げ出した。

ハゲ頭をメッタ打ち

使用者のハゲ頭の男性に「お可愛らしいお嬢ちゃん」と言われた時には怒りが爆発し、無言でハゲ頭をメッタ打ちした。そのつるりとした手応えは生涯覚えていたという。

すればそのうち地下水脈にたどり着き色々なことがみえてくる」と述べる彼女の言葉は力強い。

伯爵家の令嬢として生まれた女子は幼いころから能に触れ、14歳で女性として初めて能舞台に立った。その後アメリカに留学し、帰国後1929年に白洲次郎と結婚。戦後は文学者や美術家との交流を深め、古典文学や工芸、骨董品への理解を深めた。

隨筆を執筆するかたわら、銀座に染物工芸の店「こうげい」を営んだ。行動派の女性であったため、各地を旅して日本文化における美を追求し、生涯にわたって多くの作品を残した。「何でも良いから一つ、好きなことに集中して井戸を掘りなさい。そう

『鶴川日記』文化出版社 1979年
『かくれ里』新潮社 1971年

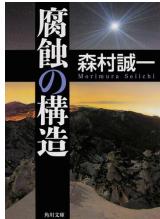
1998	1972	1964	1956	1943	1929	1924	1916	1910
年 88。 12月 26日、享	『かくれ里』で読売文学賞を受賞。 『能面』で讀賣文学賞を受賞。	『能面』で讀賣文学賞を受賞。	銀座の工芸店「こうげい」の経営者となる。	町田市能ヶ谷に転居。自宅を「武相荘」と名付ける。初めての著書『お能』刊行。	一目ぼれした白洲次郎と結婚。	女人禁制の能舞台に女性として初めて立つ。アメリカに留学。アメリカから帰国。	学習院女子部幼稚園を卒業。能を習い始める。	1月7日、東京都千代田区に生まれる。

おススメ作家紹介

森村誠一



『人間の証明』
角川文庫 2015年



『腐蝕の構造』
角川文庫 2015年



『新版 悪魔の飽食』
角川文庫 1983年



『悪道』
講談社文庫 2012年



『写真俳句のすすめ』
朝日文庫 2008年

森村誠一は、社会派ミステリーの第一人者として一世代を築いた作家です。その後、ノンフィクション作品や時代小説も発表、晩年は「写真俳句」を提唱して幅広く活躍しました。森村作品の特徴は、平和や自由への強い願いを原動力としながら、冷静な眼差しで時代や人々を観察し、客観的な視点で世相や人情を描きだすところにあります。代表作には「証明」シリーズや棟居刑事シリーズ、悪道シリーズなどがあり、テレビドラマ化された作品も多くあります。1991年から90歳で亡くなる2023年までを町田市で過ごし、2022年には町田市名誉市民として表彰されました。